

001 健

	作品名	出版社	著者	コメント	評価
1	東京人 02/09月号	都市出版		特集「たてもの東京昭和史」 小特集「東京で涼を楽しむ」	
2	東京人 02/10月号	都市出版		特集「神田神保町の歩き方part3」 本は好きだから神田にもたまに行くが専門店が多いのと店主の思い入れの強さで割高なのが難点なんだよな。 小特集「東京発とれたての野菜」	
3	琥珀色の記憶 時代を彩った 喫茶店	河出書房 新社	奥原哲志	会社勤めを始めた頃、街歩きが休日の習慣になっていた。永島慎二の作品に影響を受けて新宿、阿佐ヶ谷、吉祥寺など中央線沿線を中心に散歩というよりは徘徊し古書店、映画館、ラーメン屋巡りをしては喫茶店で時を過ごした。思えば随分色々な喫茶店に入った。それぞれの店に個性があって今も持っているマッチをみると記憶が蘇ってくる。その喫茶店も今なお残っている店は数えるほども無い。 この本は昭和30から40年代若者文化の中心であった新宿にあった代表的な喫茶店のあゆみとそこに集った人たちを通して各店の特色、しいては当時の喫茶店文化を考察するもの。取り上げている店数は少ないが店の景観、調度品、パンフ、マッチに至るまで写真資料が多いのが良い。 茶房青蛾、新宿風月堂、名曲喫茶らんぶる、ジャズ喫茶DIGなどなど。	
4	ぼくの伯父さんの ガイドブック カフェ 東京喫茶店案内	ギャップ 出版	沼田元気	こちらは愛読誌である「東京人」でおなじみの著者がお勧めの喫茶店を紹介するガイド本。エッセイ、対談、著名人のエピソードなども適度にコラムの形で挿入しているのがミソだがやや物足りないか。	
5	IN POCKET 02/08月号	講談社		真夏のシネマ対談 原田宗則 × 阿部和重 原田宗則は1959年、阿部和重は1968年生まれなので対談に出てくる映画はリアルタイムで観ているので興味深く読んだ。がみちゃんもよく言っているが漫画、小説、TVを語るときより何故か映画のときのほうが熱くなるんだよな。	

6	スナーク狩り	光文社文庫	宮部みゆき	現在の裁判制度では加害者がいかに残虐・非道な行為をしても必ずしも被害者側の納得できる決着とはならないことも多い。しかも当事者には長い年月が費やされ騒いだ人々にも忘れ去られてしまう。 妻を殺害された織口邦夫は、偶然知り合った関沼慶子が恋人への復讐を企てており散弾銃を持っている事を知りそれを奪って殺害者への制裁を計画する。ところがその銃のセッティングにはある仕掛けがしてあり、散弾銃を巡って身内、行きずりの人を巻き込む追走劇となる。
7	まるごと 宮部みゆき	朝日新聞社	文芸編集部	収集癖のあるものにとってついつい買ってしまうカタログ本。しかし、これで完全版とはならないからまた新作を加えたものを買うはめになる。これが難点なのさ。 インタビューを含め第26回オール読物推理小説新人賞受賞作品「我等が隣人の犯罪」収録しかしこの作品「高 時代」「高 コース」の付録についてくるような話で出来はいいけど賞には軽すぎる内容と思う。
8	笑芸人 vol.7 2002夏号	白夜書房	高田文夫 責任編集	特集「真夏の夜のイリュージョン&ものまね」マジシャンの本格派から寄席芸人までルーツを辿り網羅、ものまね師もしかり。 あのミスター・マリックが新宿伊勢丹のおもちゃ売り場で手品用品の実演販売をしていたとは。「この件について何かご質問は？」の名セリフでおしゃべりマジックのさきがけとなった伊藤一葉も懐かしい。
9	戦場の名言録	PHP文庫	柘植久慶	副題「究極のリーダーシップ」を歴史に学ぶ
10	チャンネルの5番	講談社文庫	林真理子 山藤章二	夕刊フジでは土日を除く毎日連載方式で百話続けるエッセイシリーズがあった。その挿絵を担当していたのが山藤章二。となれば普通の挿絵ではなくエッセイの内容に関連したチャチャをいれたり作家を似顔絵にして登場させるものだから相乗効果があって面白かった。 読んだことのあるのは野坂昭如、筒井康隆、山口瞳、中山稔、青木雨彦、五木寛之、景山民夫。作家が個性的なほど面白いのだが林真理子は知らなかった。この本は古本屋で100円で売っていたもの。 読んだ事が無い作家で渡辺淳一のシリーズがあるがかたくなに単行本化を拒否しているとのことだ。山藤章二の挿絵が原因なのは明白と思われるが。

11	日本百低山	山と溪谷社	小林泰彦	<p>現在も「山と溪谷」誌に連載中の絵と文で綴る低山紀行、かつ登山ガイドになっている。連載20年を越える中から深田の「日本百名山」をもじって低山百選を紹介したもの。</p> <p>著者はイラストレーターでもあるので全山イラスト入りで単純な絵ながらほのぼのとした感じが単なる山好きではないことを窺わせる。</p> <p>しかしながら名山は全国区だが低山というと地元以外の人には著名度も低くなるのでマイナー感は否めない。以下はDOKU - GAKU会員地元で取り上げられていた山々。</p> <p>神奈川県丹沢・大山、塔ノ岳、箱根・金時山、駒ガ岳、明神ガ岳、広島県宮島・弥山(みせん) 愛知県奥三河・鳳来寺山、(仏法僧)三河南部・本宮山、豊橋・石巻山(いしまきさん)</p>
12	山と俳句の五十年	梅里書房	おかだ にちお 岡田日郎	<p>「山火」主宰。山と俳句。どちらが好きかということはないんでしょうがやはり、山が好きで好きな山を詠いたかったのだろうか。本書は俳句を交えて語る山岳エッセイであり回顧録にもなっている。</p> <p>夏になるとアルプスの山々を思い行ってみたくはなるものもはやその体力は無い。</p>
13	男の俳句、女の俳句	角川書店	ふじたしょうし 藤田湘子	<p>男女の差別をしているわけではないと序盤に説明をしているだけで内容は男っぽい俳句、女っぽい俳句と分けてはおらず俳句づくりの骨法を著わしたもの。結局、俳句づくりの本って何を讀んでも言っていることは同じ。最後は自分の内面を含めてものを観る力、他人の句を鑑賞する力を養い自分で身につけるしか無いって事か。もっとも、表現技術も知っている言葉の量もまだまだ全然足りないから色々讀んではいるが...</p>
14	微苦笑俳句コレクション	実業之日本社	江国滋	<p>週刊小説に連載されていたものだそうだ。前に図書館で続編のほうを先に借り、読書リストに掲載したのでこの本も借りました。</p> <p>「七月は脳を休めて水飲んで」が著者愛好句僕が面白いと思ったのは以下の通り。</p> <p>炎天に行く食はんため生きむため 冷房のための上着を持って出る 万緑や俳句は詠まぬ天皇家 「かくて夏果つ」と立腹帳に書いて寝る おいと呼ばばはいとどこかで春隣 松の内人を訪ねず人も来ず</p> <p>皇室に嫁いだ雅子さまも短歌を詠まないといかんのだよなと余計なことまで思ってしまう。</p>

15	東京路上博物誌	鹿島出版会	藤森照信 荒俣宏 春井裕	藤森は建築史家、荒俣は西洋神秘文学・博物学、春井はイラスト・実録デザインを担当。とにかく好奇心が異常に強い。日常に埋没し一顧だにしないものに焦点をあて研究し大真面目に分類・カタログ化してしまう。美術・芸術というより物に対する好奇心といえる。建物についている動物の意匠、記念像、銭湯のペンキ絵、富士塚、レトロ住居、地下鉄考など内容は盛沢山。
16	俳句のくから あそび 遊の一句	角川書店	三重県 俳句協会	芭蕉のふるさと三重県では毎年テーマを定めたテーマ部門、雑永部門の句を募り小・中・高校生、一般それぞれに分けて選句したものを掲載。優秀作品には表彰を行っているとの事。平成14年度は「水の一句」だそうで8月19日～11月19日が募集期間。この本は13年度のもので約20万3千通の中から5千句を選んで掲載したもの。
17	りゆう 理由	朝日文庫	宮部みゆき	東京都荒川区にそびえる超高層マンションで起きた一家惨殺事件。ところが殺されたのはその部屋の住人ではなかった。物語はノン・フィクションの形で記録、取材時の証言をつないで進んで行くが、すべての情報が拡散していくのか収斂していくのか。殺人者を追求するというより浮かび上がる証言、事実の中に世相の闇が見える作品。現実でも一つの事件が起きるたびに明らかになる意外な事実。人と人の交わり、報道の在りかたなど様々な問題が浮彫りにされる。
18	作家小説	幻冬社	有栖川有栖	作家をテーマにした短編集。 8つの作品からなるが期待はずれ。
19	日本列島百名水	講談社 カルチャーブックス	カルチャーブックス編集部	全国各地の名水とその生まれ出ずる景観を撮影したもの。神秘的な映像は見ていて飽きない。
20	鶴見ところどころ	(株)230クラブ新聞社		鶴見のあゆみを象徴するスポットに焦点をあてその思い出、歴史を綴る。地元なのでご近所トマソン隊とおおいにかぶってます。
21	いちずに一本道 いちずに一ツ事	角川文庫	相田みつを	貧しい時代を生きた経験があるとどうもこの手のエッセイには弱い。著者が書く単純明快な色紙の言葉。いろいろなしがらみの中にいると物事単純に考えたくなるもの。
22	「Y」の悲劇	講談社文庫	有栖川有栖 篠田真由美 二階堂黎人 法月綸太郎	エラリー・クイーンの「Y」の悲劇に因んだ短編の競作シリーズ。

23	ふくろうの本 図説 東京裁判	河出書房 新社	平塚証緒	夏は終戦記念日があるので戦争関係の本が居並ぶ。近代日本史は学校では殆どやらなかったから司馬遼太郎の「坂の上の雲」、荒巻義男の「紺碧の艦隊」・「旭日の艦隊」シリーズを読んで以来、明治以降の近代史に興味湧いている。この本は東京裁判のあらましと関わった人物たちを図説、写真を豊富に使って解説したもの。
24	ふくろうの本 図説 遠野物語の世界	河出書房 新社		「遠野物語」は遠野の東北部土淵に生まれた佐々木喜善と柳田國男との出会いから遠野にまつわる神、妖怪、家々の伝承を聞き語りとしてまとめたもの。この本は刊行の資料、関与した人物の資料はもとより遠野の山、川、里、町の風景、風俗資料を余さず写真で詳解。但し、高橋克彦は東北出身の作家として「遠野物語」にはおどろおどろした部分を敢えて除外しているとして遠野の真実を伝えるには問題としている。
25	空撮日本百名山	山と溪谷社	撮影 内田修・瀬尾央 解説 佐古清隆	只、眺めるのみ。コメントは無い。
26	かめ女 一宿一句	現代旅行 研究所	伊崎恭子	元日本交通公社勤務。長年ガイドブックの編集にあたり「るるぶ」の編集長歴任と書いてあったので納得。現在の本職は旅行作家ということになっている。 題名のとおり泊まったホテル、旅館を詠んだ句を表題に紀行文と、程よいエッセイの集まりとなっていて旅どころが湧いてくる1冊。四季別に55宿・番外2宿、平岩弓枝の「御宿かわせみ」、池波正太郎の「闇の狩人」引用をもとに旅館の紹介をしている。
27	俳人句話 現代俳人たちの 風貌と姿勢 _下	角川書店	森澄雄	秋本不死男、阿部みどり女、飯田蛇笏、飯田龍太、意思だ波郷、石原舟月、石原八束、宇佐美魚目、大井雅人、加藤楸邨 小論集
28	ニッポン ありがち図鑑	扶桑社文庫	文・石原壮一郎 土屋弘明他 絵・中野豪	個性的であること、創造的であることが良しとする時代であってありがちな行動、会話、リアクションなどを様々な場面ごとに分類しその行動、会話の内容を検証する。 ありがちな行動・会話って取り敢えずその場をやりすごすのに都合が良いことも結構あるんだけどね。

29	やぎけん 八木健の すらすら俳句術	岳陽舎	やぎたけし 八木健	<p>元BS俳句王国の司会者で自ら兼題にも参加。土曜日は衛星放送でNHKの連続TV小説を1週分一挙放送するするので、これと囲碁・将棋ウィークリーを見ている。「BS俳句王国」は間に入るの自然見るようになっていた。著者の司会は飄々としていてユニークなツッコミがいい味を出していて適役だった。参加する視聴者は前もって兼題を通知されているそうだが氏は放送2分前に兼題を聞いて作っていたようだ。DOKUGAKUのお題に四苦八苦している自分にはとても考えられん。この本は著者の経験、俳句仲間との交友を元に俳句つくりのコツを著わしたもので結構ユニーク。去年俳句を始めた頃、「かき氷まずはてっぺんとり崩し」という句を作ったことがあるがこの本の中に「かき氷どの部分から崩そうか」という句を見つけて思わず笑ってしまった。</p>	
30	イマドキ 現在用語50	朝日新聞社	南伸坊 + 朝日新聞学芸部	<p>朝日新聞の文化欄に掲載されていたものを一冊にまとめたもの。最近やたらカタカナ語やら省略アルファベットで話す人が多くてなんのこともかさっぱりわからん。この本はその他いまどきよく聞くキーワード(健康、デジタル、おいしい、天然、超など)について、</p> <p>その用語に対する学者・著名人のコメント 記者の取材による事象・引用をからめた解説 シンボールの言い分</p> <p>の構成になっている。</p> <p>つまり硬くなりがち内容なので南伸坊のボケ・ツッコミを入れるという形になっているわけだ。アカウントビリティー(説明責任)なんて言葉もあるが説明責任なんて言葉は無かったから、こういうのを聞くと日本語って本当に曖昧に出来てる。</p> <p>若者ことばの語彙は少ない割に程度を表す言葉が多いというのはなるほどと思ってしまった。</p>	